

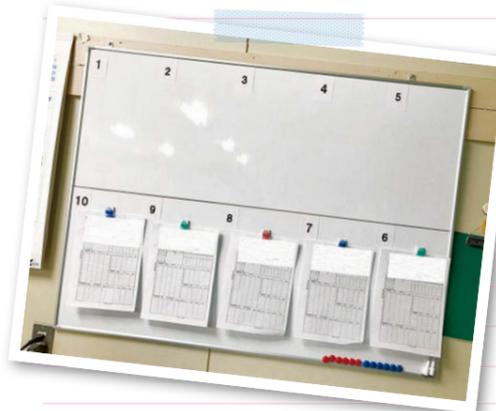
FILE

39 リニューアル!!

採卵に欠かせない道具とは何でしょう？
バルーンカテーテルや還流液、受精卵をキャッチするフィルターなど、たくさんの道具が必要ですが、関係者全てが必ず使用する超重要な道具があるのです(´▽`)/

それは……記録用紙&貼り付けボードです(▽)
記録用紙には過排卵処置の方法や過去の採卵成績、使用した精液など、たくさんの情報が記載されており、採卵前に必ず確認します。
採卵後は黄体数などの所見を記載して、受精卵の入ったフィルターとともに検卵室に移動し、受精卵の数やランク、ストロー番号なども記録されます。

この地味にすごい記録用紙&貼り付けボードをなぜ紹介したかといいますと……このたび貼り付けボードが18年ぶりにリニューアルしました(≧▽≦)/



ET研究所が北海道士幌町に移ってきてから18年、採卵のたびに欠かせず使用されてきた貼り付けボードですが、新品のホワイトボードに変わりました！
ピカピカ光っててまぶしい！
ちなみに古い貼り付けボードはこちら。



うーん、歴史を感じさせます。
記録用紙のピン止めを繰り返すすぎてボロボロになってます(´_`;) このため、ピンがすぐに抜けてしまい、引退する事になったのです。

ET研究所の採卵をずっと見守り、支えてくれた貼り付けボードさん、本当にお疲れ様でございました。
リニューアルしたボードとともに心機一転。
ET研究所もますます進化していきますよ～！

FILE

40 そのころは？

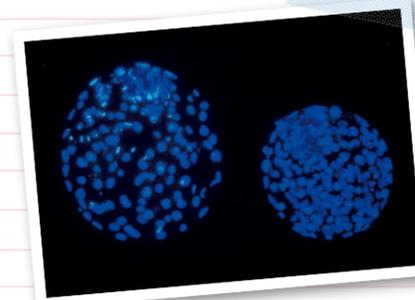
同じ条件下で培養した体外受精卵でも、受精しないもの、発育途中で死んでしまうもの、きれいに発育するもの、などなど……発育スピードも本当にさまざまです。

右の写真は同じ条件下で体外受精した受精卵2つを凍結融解したものです。

細胞一つひとつが分かりやすくなるように、青く染色しています。

凍結前のステージとランクはそれぞれ同じでしたが……細胞の密度がぜんぜん違うのがお分かりいただけますか!?

(ちなみに、右と左の受精卵は、細胞数はほぼ同じ数です)。



右の受精卵はシュリンク（収縮）しているため、細胞と細胞がつまっているように見えています。同じステージランクの受精卵に同様の処置をしても反応もさまざまです。
この反応の差が受胎に影響しているんだらうなあ……なんて思いつつ研究していますゆ(。//)

ET研の「いま」が分かる「全農ET研ブログ」はコチラ▶▶ <http://etken-blog.lekumo.biz/et/>
※編集の都合上、ブログと表記や写真等が異なる場合がございます



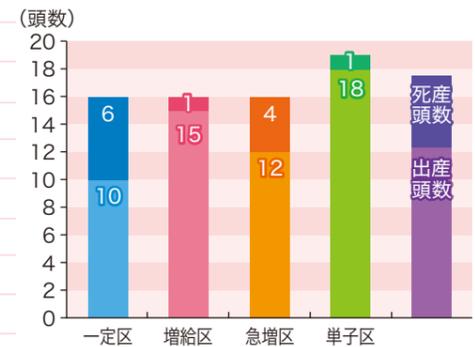
ET技術を活用して、優良和牛素牛、優良和牛繁殖牛の増産や、乳牛の後継牛確保・改良の研究を行う「JA全農ET研究所(ET研)」。そのET研が発信しているブログから、皆さまに役立つ情報を紹介していきます！



FILE

38 和牛の双子生産④ ～双子受胎牛の分娩成績～

和牛の双子生産、第4回目の今回は、双子受胎牛の妊娠末期の栄養管理ごとの分娩成績を紹介します(試験内容を紹介した第3回は本誌107号参照)。



●試験区のおさらい

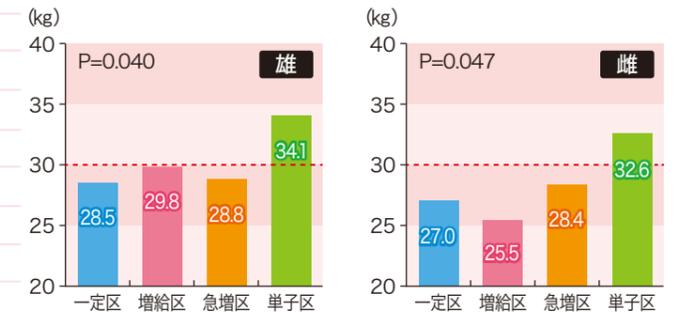
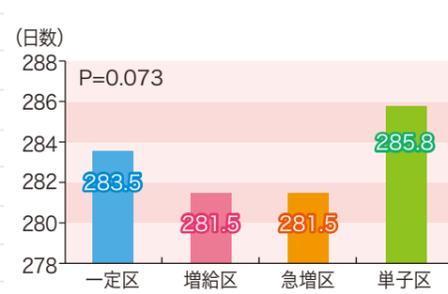
	双子区			単子区
	一定区	増給区	急増区	
配合飼料給与量(充足率)				
分娩2カ月前～	3kg (100%)	3kg (100%)	1kg (85%)	1kg
分娩3週間前～	3kg (100%)	6kg (130%)	6kg (130%)	3kg
母牛試験頭数	8頭	8頭	8頭	19頭

●分娩成績～子牛の生時体重～

単子と比較し、双子は全ての区で生時体重が5kg前後小さくなりました。血統による差を防ぐため、使用した受精卵の種類(増体系)に統一しました。

●分娩成績～妊娠期間～

単子と比較し、双子は全ての区で妊娠期間が5日前後短縮されました。



●分娩成績～産出子牛頭数～

増給区は比較的安定した分娩成績が得られました(子牛16頭中15頭生産)。

以上の結果から、双子受胎牛の妊娠末期の栄養管理を調整する事で、

一定区は最も死産が多く、栄養摂取量が不足していた可能性があります(子牛16頭中10頭生産)。急増区も死産が多く、配合飼料を1kgから6kgに急激に増給した事が母牛へ影響を及ぼしたと考えられます(子牛16頭中12頭生産)。なお、本試験では5～7産の母牛を試験に用いており、ほぼ自然分娩でした。

・死産を少なくする事ができる。
・妊娠期間や子牛の生時体重は変わらない。
という事が分かりました。

この事から、死産を少なくし、多くの子牛を生産するためには、【増給区】を基本とした栄養管理が理想的であるといえます。

